

# 英語コーパス学会第31回大会

ワークショップ 《『用例コーパス』を使った英語指導・学習》 10:00~11:45 (9:30 受付開始)  
会場：情報メディアセンター(10号館)6階 CALL 教室4  
講師：井上 永幸(徳島大学)、岩井 靖(兵庫県立佐用高等学校)、山本 康一(三省堂辞書出版部)  
定員：先着 50名 参加費：会員無料・非会員 1,000円(申し込みは郵便・電子メールで事務局まで)

日時 2008年4月26日(土)  
会場 摂南大学寝屋川キャンパス 情報メディアセンター(10号館)  
(〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8 <http://www.setsunan.ac.jp>)  
受付開始 12:00(情報メディアセンター(10号館)6階)  
開会式 13:00(情報メディアセンター(10号館)6階1063室)

司会 山崎 俊次(大東文化大学)  
赤野 一郎(京都外国語大学)  
今井 光規(摂南大学学長)

1. 会長挨拶  
2. 開催校挨拶  
3. 総会  
4. 事務局からの連絡

< 研究発表第1室(情報メディアセンター(10号館)6階1063室) >  
研究発表1 13:40~14:10  
コーパス分析による訳語選択 英和辞典の場合 司会 神谷 昌明(豊田工業高等専門学校)  
吉村 由佳(元バーミンガム大学大学院生)

研究発表2 14:15~14:45  
「例外的」用法の辞書記述 which 節および when/if 節に関して 司会 中山 仁(福島県立医科大学)

< 研究発表第2室(情報メディアセンター(10号館)6階1064室) >  
研究発表1 13:40~14:10  
日本語母語話者による英語研究論文における伝達推測使用の特徴 司会 柳 朋宏(中部大学)  
大友 千乃(東北大学大学院生)

研究発表2 14:15~14:45  
ICE (International Corpus of English) GB を利用した文法解析 司会 新井 洋一(中央大学)

< 休憩 14:45~15:05 >

シンポジウム 15:05~17:25 (情報メディアセンター(10号館)3階プチテアトル)  
《英和辞典とコーパス》

G4 編纂におけるコーパス利用について 司会 井上 永幸(徳島大学)  
講師 中邑 光男(関西大学)  
『ロングマン英和辞典』における「ロングマン現代日本語コーパス」の活用について 講師 村木 幸一(桐原書店/ピアソン・エデュケーション)  
『ウィズダム英和辞典』(第2版) : Corpus-Based から Corpus-Driven へ向けて 講師 井上 永幸(徳島大学)  
コーパスを謳う英和辞典 苦悶するレキシコグラファー、欲求 利用者 講師 西村 公正(元関西外国語大学短期大学部)

閉会の辞 植松 茂男(摂南大学)  
《懇親会 時間：17:45~19:30 場所：11号館11階スカイラウンジ 会費：4,000円》

---

英語コーパス学会 (Japan Association for English Corpus Studies)  
会長 赤野 一郎 事務局 〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1 大東文化大学 山崎俊次研究室  
TEL: 03-5399-7372 E-mail: [yamazaki@ic.daito.ac.jp](mailto:yamazaki@ic.daito.ac.jp) 郵便振替口座 00940-5-250586  
URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html>

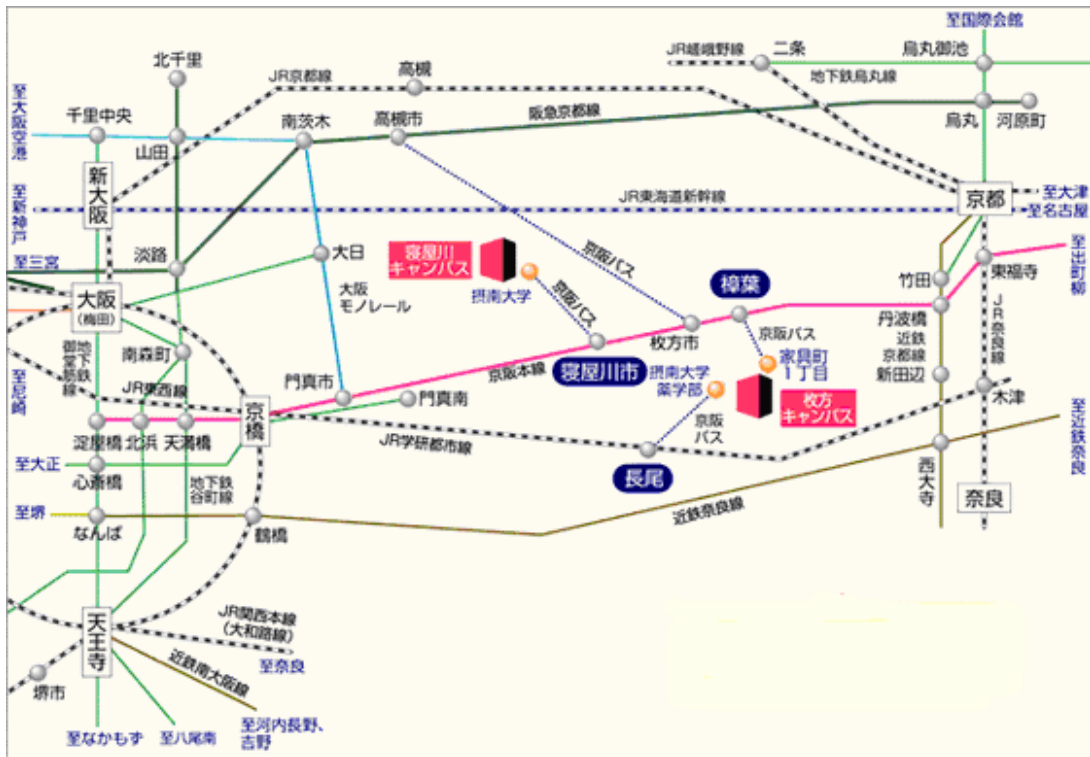
---

- ◆ 大会当日、入会受付もいたしますので、お誘い合わせの上ご参加下さい(年会費 一般5,000円 学生3,000円)。
- ◆ 「当日会員」としての参加も受け付けております(会費1,000円)。

# 英語コーパス学会

## 第31回大会資料

日時: 2008年4月26日(土)午後1時より(正午受付開始)  
 会場: 摂南大学寝屋川キャンパス 情報メディアセンター(10号館)  
 (<http://www.setsunan.ac.jp>)  
 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8



京都方面：近鉄京都線「近鉄丹波橋」で京阪本線に乗り換え、「寝屋川市」駅下車（約45分）  
 大阪方面：「新大阪」で地下鉄御堂筋線に乗り換え、「淀屋橋」駅経由で京阪本線「寝屋川市」駅下車（約45分）  
 「寝屋川市」駅（南出口）の京阪バス西3番乗り場から京阪バス乗車、「摂南大学」で下車（約15分）

## 第 31 回大会プログラム

### ワークショップ《『用例コーパス』を使った英語指導・学習》

会場：情報メディアセンター(10号館)6階 CALL 教室 4

時間：10:00～11:45(9:30 受付開始)

講師：井上 永幸(徳島大学) 若井 靖(兵庫県立佐用高等学校)  
山本 康一(三省堂辞書出版部)

定員：先着 50 名

参加費：会員無料・非会員 1,000 円(申し込みは郵送・電子メールで事務局まで)

日 時 2008 年 4 月 26 日(土)

会 場 摂南大学寝屋川キャンパス 情報メディアセンター(10号館)

受付開始 12:00(情報メディアセンター(10号館)6階)

開 会 式 13:00(情報メディアセンター(10号館)6階 1063 室)

司 会 山崎 俊次(大東文化大学)

1. 会長挨拶

赤野 一郎(京都外国語大学)

2. 開催校挨拶

今井 光規(摂南大学学長)

3. 総会

4. 事務局からの連絡

< 研究発表第 1 室(情報メディアセンター(10号館)6階 1063 室) >

司 会 神谷 昌明(豊田工業高等専門学校)

研究発表 1 13:40～14:10

コーパス分析による訳語選択 英和辞典の場合

吉村 由佳(元バ・シガム大学大学院生)

研究発表 2 14:15～14:45

「例外的」用法の辞書記述 which 節および when/if 節に関して

中山 仁(福島県立医科大学)

< 研究発表第 2 室(情報メディアセンター(10号館)6階 1064 室) >

司 会 柳 朋宏(中部大学)

研究発表 1 13:40～14:10

日本語母語話者による英語研究論文における伝達動詞使用の特徴

大友 千乃(東北大学大学院生)

研究発表 2 14:15～14:45

ICE (International Corpus of English) GB を利用した文法解析

新井 洋一(中央大学)

< 休 憩 14:45～15:05 >

シンポジウム 15:05～17:25 (情報メディアセンター(10号館)3階 プチテアトル)

《英和辞典とコーパス》

司 会 井上 永幸(徳島大学)

G4 編纂におけるコーパス利用について

講 師 中邑 光男(関西大学)

『ロングマン英和辞典』における「ロングマン現代日本語コーパス」の活用について

講 師 村木 幸一(桐原書店/レ・アソシエーション)

『ウィズダム英和辞典』(第 2 版) : Corpus-Based から Corpus-Driven へ向けて

講 師 井上 永幸(徳島大学)

コーパスを謳う英和辞典 苦闘するレキシコグラファー、欲深い利用者

講 師 西村 公正(元関西外国語大学/現大阪大学)

閉会の辞

植松 茂男(摂南大学)

《懇親会 時間：17:45～19:30 場所：11号館 11階スカイラウンジ 会費：4,000円》

【ワークショップ】

「用例コーパス」を使った英語指導・学習

井上 永幸(徳島大学)  
岩井 靖(兵庫県立佐用高等学校)  
山本 康一(三省堂辞書出版部)

現在三省堂が Web 上で辞書サイトであるデュアルディクショナリーの一部として無料公開中の「用例コーパス」(改良版)を使って、検索方法、教材・課題の作成方法を紹介し、実習する。コーパスを使って編集された辞書の用例を活用することにより、効率的な英語学習が見込まれる上、生徒・学生に使わせればゲーム感覚で英語の用例検索に親しみ、知らず知らずのうちに英語にふれる時間を増やすことができる。ワークショップでは、下記のような分担で紹介と実習を進める。

<概要説明>(担当:山本 康一)

- (1) 「用例コーパス」について
- (2) 「用例コーパス」の主な検索式

<高校編>(担当:岩井 靖)

- (3) Reading の授業で活用する
- (4) Grammar の授業で活用する
- (5) Composition の授業で活用する
- (6) センター試験対策で活用する

<大学編>(担当:井上 永幸)

- (7) 「用例コーパス」を大学で英語指導・学習に使う意味
- (8) 教師が「用例コーパス」を使用して教材作成
- (9) 学生に「用例コーパス」を使用させる
- (10) 教科書を使った活用

<応用編>(担当:山本 康一)

- (11) 「用例コーパス」を使ったテキスト処理

【研究発表第1室】

【研究発表1】

コーパス分析による訳語選択 英和辞典の場合

吉村 由佳(元パーミンガム大学大学院生)

二言語辞典は訳語選択が適切に行われない場合、学習者の母語と目標言語との意味の差が大きくなり、この問題は二言語辞典の弱点としてしばしば指摘される(Summers, 1998; Al Ajmi, 2002)。しかし、実際に日本人学習者が主に使うのは英英辞典ではなく英和辞典である。そのため、適切な訳語選択は英和辞典編集において欠かせない重要な部分である。近年の英和辞典はコーパス利用の成果を主に語法や例文に反映してきた感があり、訳語については、まだコーパス利用による改善の余地があると思われる。

本研究は英和辞典の編集段階において、コーパスを用いて適切な訳語を選択する方法を探るもので

ある。具体的題材に try という語を取り上げ、Bank of English から直接目的語として名詞が後続する try のコンコーダスラインを抽出、そのうち 86%を占める名詞群を分析した。「試されるもの」を示すこの名詞群は、その特性により細かく分類できる。辞書編集時には、語義を大きく分類する立場と細かく分類する立場がある(Allen, 1999)が、英和辞典の場合、細かい方が意味や共起名詞の種類を伝えやすい。コンコーダスラインを見れば、直接目的語に製品(22%)や飲食品(14%)が含まれることがわかり、この場合は「試して[食べて]みる」などの訳語が望ましい。しかし、人や場所(20%)が目的語の場合、同じ訳語では違和感があり、「会って[行って]みる」などの方が適切である。この様にコンコーダスラインを精査することで、共起名詞をグループ化し、それぞれに適切な訳語選択が可能となる事を示す。また、日本語コーパスの Kotonoha Corpus を用いて名詞 try の訳語をいくつか抽出し、その collocates を Bank of English の名詞 try の collocates と比較することで、より使用域に近い訳語は何かを考察する。

## 【研究発表 2】

「例外的」用法の辞書記述      which 節 when/if 節に関して

中山 仁(福島県立医科大学)

いくつかの従属節に関する「例外的」用法を辞書に記述する意義、および、その際のコーパスの活用について論じる。「例外的」従属節の具体例としては(1)のような which を用いた非制限的關係詞節や、(2)のような補語位置に生じる(be 動詞に後続する)when 節や if 節などについて取り上げる。

(1) She's borrowed a history book. **Which** suggests her teacher is having some influence on her.

(Quirk et al. 1985: 1463)

(2) a Frustration is **when** you can't find the car keys.

(Wilson 1993: 464)

b. The only way his role can be clarified and his position made tenable again is **if there's a public inquiry**.

(COBUILD3)

(1)については既に滝沢(2001)が The Bank of English を用いてその分布状況を示し、さらに中山(2007)がコーパスその他から得られる特徴を追加した上で語用論的な考察を行っている。この用法は、最近の英和辞典でも次第に取り上げられるようになってはきたが、それに関する辞書記述には改善の余地があると思われる。本発表では which 節の特徴のうち、辞書に記述するに値する情報をいかに取り込むかについて、コーパスから得られた情報を利用した記述例を示したい。

(2)は、現時点では辞書で扱われていない種類の構文であるが((2b) は単に tenable の用例として掲載されたもの)、実際にはしばしば見かけるものであり、ある母語話者によればごく自然な表現であるという。これは一見 when/if 節が単なる名詞節として機能しているため、日本人学習者としてはその解釈を(特に聞き取りの際に)誤解してしまう可能性のある表現とも言えるので、注意を要する。しかも、このような表現は(特に英語学習の過程で)実際に遭遇する可能性が比較的低いため意識されにくい。本発表ではこれを辞書記述に値する表現と見なし、そのためには前後の文脈や話し手の意図などの情報をどのように盛り込むべきか、その際コーパスから得られる情報がいかに活用できるかについて論じる。

### 参考文献

中山 仁. 2007. 「独立文となった非制限的關係詞節の語用論 発話解釈の観点から」『英語語法文法研究』英語語法文法学会(編) 13号, 127-141. 開拓社, 東京.

中山 仁. 2007. 「補語位置に生じる副詞節の用法と解釈プロセス 定義などに用いられる when/where 節に関して」『英語語法文法学会第 15 回大会予稿集』49-56.

滝沢直宏. 2001. 「文外に先行詞を持つ関係代名詞 Which 語彙と構文の相互依存性と談話的機能」『意味と形のインターフェイス(中右実教授還暦記念論文集)』下巻, 837-846. くろしお出版, 東京.

Quirk, R. et al. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman, London.

Wilson, K. G. 1993. *The Columbia Guide to Standard American English*. Columbia University Press, New York.

## 【研究発表第2室】

### 【研究発表1】

#### 日本語母語話者による英語研究論文における伝達動詞使用の特徴

大友 千乃(東北大学大学院生)

現代では多くの英語非母語話者(NNS)が多様な目的のために英語を用いているが、正確な情報を伝達することが必須である学術・研究分野においては、NNSの特徴が顕著な英語が不利となることも考えられる。国際的学術誌に採用されたNNSの研究論文(Research Articles)には文法的過誤は稀だが、英語母語話者の研究論文との間に質的な差異があることを示す研究もある(田中ほか、2006)。しかし一方では、熟達したNNSの英語研究論文は、NSのものと比較しても遜色ないとする見方もある(Burough-Boenisch, 2003)。

以上を踏まえ、本研究では学術のために用いられる英語(English for Academic Purposes)に焦点を当て、特に研究論文に用いられる頻度が高い伝達動詞(Reporting Verbs)に着目する。著者自身の発見や他者の研究に対する認識、引用や主張などを表現するという重要な役割を担う伝達動詞は、情報を過不足なく伝達するために欠かせないものである。

本研究では英語母語話者(ENS)と日本語母語話者(JNS)によって書かれた複数の英語研究論文をコーパス化し、研究論文内でどのような伝達動詞が用いられているか、また伝達動詞がどのような主語、時制、態で用いられているかについて分析を行う。また、ENSとJNSの分析結果について比較を行い、JNSの英語伝達動詞使用の特徴を統計的に分析する。伝達動詞の使用傾向は母語の影響によるものなのか、あるいは研究領域による影響なのかについて明らかにするために、使用語彙等が異なることが予測できる複数の研究分野の研究論文についても比較も行う。

### 【研究発表2】

#### ICE(International Corpus of English)GBを利用した文法解析

新井 洋一(中央大学)

英語コーパスの大部分の文法標識付与は、語や語句のレベルの品詞標識付与(POS tagging)にとどまる。品詞標識付与に加えて、主語・目的語・補語、能・受動態、形容詞節、従属節、関係節などの文法機能や統語関係を分析した標識付けや、間つなぎ表現(Filler)などディスコースに関わる標識付与までがなされたコーパスは少ない。POS taggingに加えて、このように語句、節、文のレベルまで統語解析(Syntactic Parsing)がなされている英語コーパスのひとつとして、International Corpus of English(ICE)のGB部門(以下ICE-GBと呼ぶ)がある。このICE-GBは、完成からすでに10年を経ているが、今まであまり取り上げられてこなかった。

本発表では、まず、ICEの歴史、ICE-GBの特徴、ICE-GBの文法(単語、範疇、素性、機能)ラベル、解析樹(Parse Tree)、専用の検索ツールICE-CUPの検索例などについて簡単に紹介する。次に、コーパスに文法解析がなされているICE-GBが、なされていないコーパスと比べて、どのようなメリットがあるのか、ひとつの先行研究と、2、3の独自の調査・分析結果をもとに報告したい。

先行研究として、ICE-GBのテキストカテゴリーの分布調査から、if副詞節の生起位置の傾向をまとめた調査例(Nelson et al. 2002)を紹介する。そのあと、具体的な分析例のひとつとして、I meanの分析をとりあげたい。I meanは、たとえば‘oh no I don’t guarantee them **I mean** you can’t do that’(太字体筆者)において、「文字通りのNP+Vと解釈する分析」と「文字通りの解釈が希薄な、単なる間つなぎ表現としての分析」の両解釈が可能(Biber et al. 1998:72)であり、区別の判断がむずかしい。英語母国話者の言語直観を持つ言語学者によって一文一文チェックされたとされるICE-GBは、DISMK/FRMという文法範疇ラベルを用意して、文字通りの意味のNP[ I ] V[ mean ]と区別し、間つなぎ表現FRM[ I

mean ]のみの抽出を可能にしている。この抽出結果例を、既存の研究成果(Biber et al. 1999)と比較検討する。この他に、前置詞残留(Preposition Stranding)構文、省略語を含む構文などについて、ICE-GB を使った独自の調査結果を述べたい。さらに時間が許せば、ICE-GB の抱える限界と問題点についても触れる予定である。

## 【シンポジウム】

### 英和辞典とコーパス

司会 井上 永幸(徳島大学)

古くから辞書とコーパスは切っても切れない関係にある。古くは権威づけのための用例採取を目的としてコーパスが辞書編集に利用されていたが、1987年には、*Collins COBUILD English Language Dictionary*(Collins ELT, 1987)が、語彙選択から語義分析、用例採取など、初めて本格的にコンピュータコーパスを活用して刊行された。それ以来、英国を中心にコーパスに基づくESL/EFL辞典が発展を遂げてきた。一方、日本でも上級者向けの英和辞典では、編集にコーパスを使ったことを標榜するものが多くなってきた。最近5年間に刊行された収録項目数9万から10万語レベルの学習英和辞典に限ってみても、以下のような英和辞典を挙げる事ができる。

- 池上嘉彦・Leech, Geoffrey・上田明子・柴田元幸・長尾真・山田進 編(2006)『ロングマン英和辞典』桐原書店。〔収録語数10万2千〕
- 井上永幸・赤野一郎 編(2007)『ウィズダム英和辞典』第2版。三省堂。〔約9万項目〕
- 小西友七・南出康世 編(2006)『ジーニアス英和辞典』第4版。大修館書店。〔収録語句9万6千〕
- 竹林滋・小島義郎・東信行・赤須薫 編(2005)『ルミナス英和辞典』第2版。研究社。〔収録語句約10万〕
- 山岸 勝榮 編(2007)『アンカーコズミカ英和辞典』学習研究社。〔約9万項目〕
- 編者の50音順；〔 〕内は版元の収録語彙数に関する表現をそのまま引用。

上に挙げた辞典は、それぞれ種々の特徴を持つものの、編集にコーパスを使っているという点で一致している。コーパスを使うことにより、見出し語の語彙選択、頻度情報、語義・訳語、用例、コロケーション情報、語法情報等々、英和辞典に含まれる各種要素の編集形態も変化を遂げようとしている。本シンポジウムでは、上記5冊のうち3冊の英和辞典の関係者が、それぞれの英和辞典の編集においてコーパスがどのように活用され、その成果がどのような形で提示されているかを示した上で、今後の辞書編集とコーパスの可能性について議論してゆく。

### G4 編纂におけるコーパス利用について

講師 中邑 光男(関西大学)

G4 の編纂にあたっては、米語の情報を取り込むために、2000 年以降に米国で発行された新聞・雑誌、放送された番組から比較的平易な英語を収集し、約 1 億語のコーパス(G4C)を作成した。しかし G4C の利用においては、数々の問題が生じた。例えば、時間、予算の制限のためにコーパスにはタグは付いていなかった。またコーパスを利用したことの無い編纂者もいた。報告者は、このような制限の中でどのように G4 編纂者が G4C を利用したのかを、実例をあげて解説する。

辞書を編纂するためのリソースには、(1)コーパスからの知見、(2)ネイティブスピーカーの直感・意見、(3)日本人編纂者の知識・判断、などがある。報告者は、G4 の編纂中に、(1)と(2)を総合的に判断するためには、(3)が最も重要であると考えに至った。報告者は、このように考えるようになった理由を、実例をあげて説明する。

## 『ロングマン英和辞典』における「ロングマン現代日本語コーパス」の活用について

講師 村木 幸一(桐原書店/ピアソン・エデュケーション)

近年刊行されている英和辞典は「コーパス活用」を謳っているものが少なくない。コーパスの規模も数千万語から3億語を超えるものまでさまざまである。しかしそれらコーパスの具体的な内容については不透明な部分も多く、どのようなデータを基にコーパスが構築されているか詳しく説明されないことも多い。これにはデータの使用許諾の問題が関連していると考えられる。本発表では「ロングマン現代日本語コーパス」について、そのデータの詳細およびデータ使用許諾許可の重要性について説明する。

また「ロングマン現代日本語コーパス」がバイリンガル辞典の編纂にどのように活用されたかについて、特に英語のコロケーションとその訳語における日本語のコロケーションなどを例に説明する。例えばextensive/widespread damageという英語のコロケーションに日本語訳を与える場合、damageの訳である「被害」を強調する形容詞にどのような日本語が用いられるかなどを、実際のコーパス・データを示しながら解説する。

## 『ウィズダム英和辞典』(第2版): Corpus-Based から Corpus-Driven へ向けて

講師 井上 永幸(徳島大学)

コーパスを単なる用例集ではなく分析対象として活用し、日本語母語話者が英語を発信・受信する際に必要となる情報を提供してゆくというのが『ウィズダム英和辞典』のスタンスである。辞書引きヒット率向上のための頻度順語義・用例配列、学習辞典の規範的態度を保ちつつも最新の現代英語分析を取り入れた語法記述、急増する英語発信の機会に対応した日常生活語彙記述の充実、現実の英語使用を反映した直感的でわかりやすいレーベル表示などの他、高頻度の関連表現をまとめた「表現」欄、各見出し語の周辺に現れる語句を頻度順に示した「コーパス頻度ランク」欄、発信の際の道しるべとなる情報をまとめた「コーパスの窓」欄など、コーパス分析の結果を多角的な視野から見やすい形でコラム提示するなど、興味をもって効率的に学習を行うための工夫を随所に凝らした。独自に構築された三省堂コーパスがこれらの情報提示にどのように活用されたかを示してゆく。

## コーパスを謳う英和辞典 苦闘するレキシコグラファー、欲深い利用者

講師 西村 公正(元関西外国語大学短期大学部)

私は大学・短大英語科の1、2年生を教えた英語教師であった。この間、自らのためと教室の学生のために数種の学習英和辞典を使ってきた。それらからどんな利益を受け、何を求めていたか。本シンポジウムのいわゆるディスカッサントの立場で、自らの体験を、断片的に、また極めて自己中心的に、お伝えしたい。

英和辞典編纂に「コーパス」が利用されるまで(例えば上級者用として代表的な『研究社英和中辞典第5版(1985年刊)』)の資料は、編纂者と執筆者が日々の読書中に採取した用例カードと英米の辞書に頼らざるをえなかったであろう。とすれば、コーパスを“活用した”(W)、“基礎資料とした”(L)英和辞典、“改訂に向けて大きな準備”[「ジーニアス・コーパス」]をしたG4では、

(1) どのような見出し語が従来の辞書に加えられたであろうか、

(2) 日本人EFLのために、用例などにどのような新しい工夫がなされたか、

を利用者側から見る必要がある。「コーパス」利用の英和辞典を検証するためである。

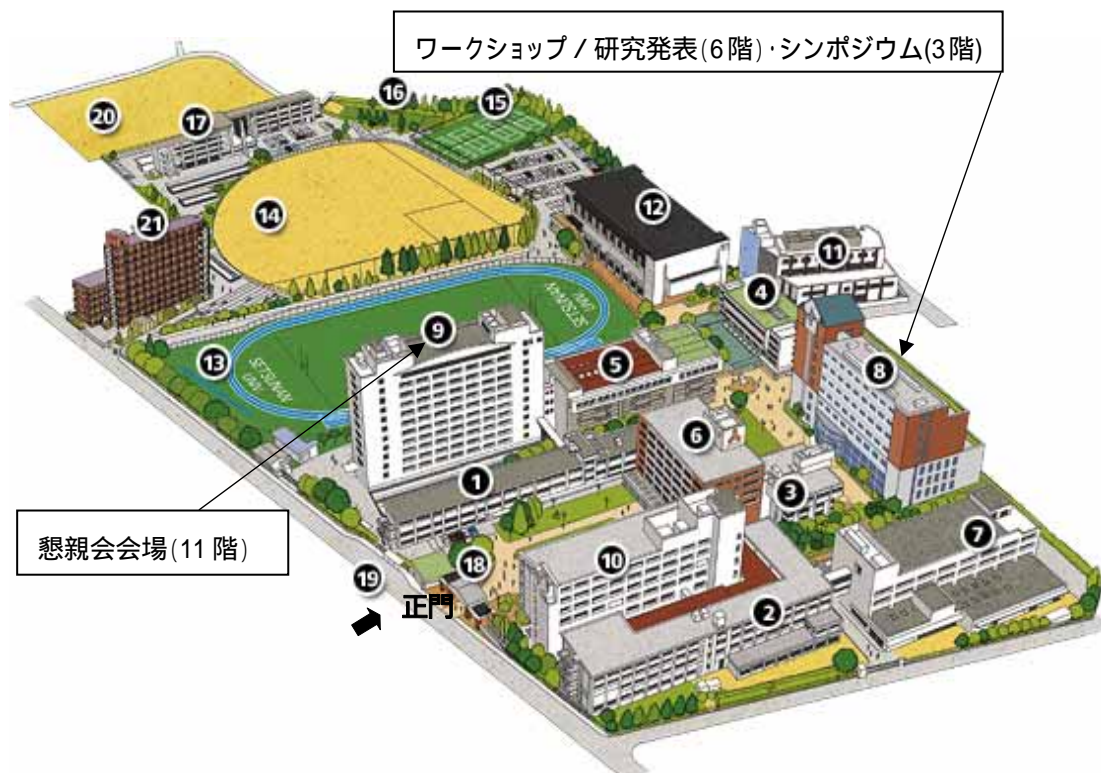
(1)について言えば学習英和辞典は「成句・句動詞辞典」の役目も要求されている。(2)については「collocation 辞典」さらには「英文を書くための英和辞典」という役目も担っている。さらには「語法辞典」であることも要求される。これに加えて、コーパスが担えない部分、「発音」「日本人EFLの学習困難点と英和辞典」「辞典の読み / 見やすさ」など辞典に求めたい点にも言及する。



### 《大会参加者へのご案内》

- 自家用車でのご来場はできません。
- ワークショップの受付は「情報メディアセンター(10号館)6階 CALL 教室4」の前で午前9時30分から行います。
- 大会の受付は「情報メディアセンター(10号館)6階」で正午から行います。
- 昼食については、大学食堂、一般利用食堂などが利用できます。
- 校内は分煙措置がとられています。指定場所での喫煙にご協力ください。
- 会員でない方も、「当日会員」として参加していただけます(会費 1,000 円)。

### キャンパスマップ



---

2008年3月1日	発行
編集・発行	英語コーパス学会
代表者	赤野 一郎
事務局	〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1 大東文化大学 山崎俊次研究室内
	TEL: 03-5399-7372 FAX: 03-5399-7373
	E-mail: yamazaki@ic.daito.ac.jp
	URL: <a href="http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html">http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html</a>

---